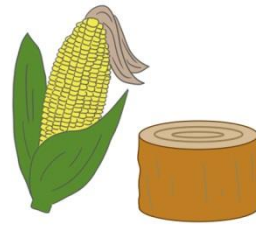
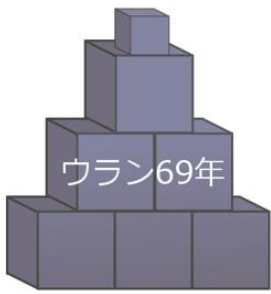


世界で見るエネルギー問題について



世界は化石エネルギーに依存しています。化石エネルギーによって私たちの生活は便利になっていますが、化石エネルギーもとい、()には限りがあります。

エネルギー資源、化石燃料の消費している量は年々増えています。特に先進国ではなく発展途上国の()や()の消費量が目立っています。ただでさえ限りのある資源、これからの生活はどうなってしまうのでしょうか？

さらに、化石エネルギーから発生する()の量が今問題となっています。化石燃料を用いる発電による()の排出は、発電によって発生する()量全体の約6割も占めています。

地球温暖化や海面の上昇、オゾン層の破壊などは二酸化炭素は増えることによる問題としてわかっていると思います。私達は即刻に二酸化炭素の発生を少しでも抑えるべく、エネルギーの()と()について少し見なおさなければいけません。では、どうすればよいのでしょうか。

現在、一番利用されているのはやはり化石燃料を利用する方法でしょう。その方法は()と呼ばれます。放射能のことで問題となった()もここに分類されます。なんと、枯渇性エネルギーだけで日本のエネルギー発電の約()割は占めています。だが日本だけでなく、枯渇性エネルギーで()割以上を占める国はまだまだ多いのです。

そのため、枯渇性エネルギーではなく、資源に限りがない（ ）による生産が求められています。

では、なぜまだエネルギー問題は起こっているのでしょうか。それは、コストがかかる、（ ）などが課題となっているからです。

ではここで視点を世界に向けて考えてみましょう。

日本は多くを化石燃料や原子力発電でまかっています。再生可能エネルギーでの生産量は全体のおよそ（ ）%にしか及んでいません。

ほかに化石燃料を用いている国としては、アメリカ・中国・フランス・イギリス・ドイツなどがあります。

しかし、再生可能エネルギーを主力としている国だってあります。

スウェーデンはおよそ 50%を（ ）でまかっている、残りも大体が原子力でまかっているなど、地球にやさしくなっています。

再生可能エネルギーは様々な種類があります。確かにコストがかかる、発電量が乏しいなど課題はまだありますが、

化石燃料を用いる生産方法だと私たちがいつ電気を使えなくなるのか分からないのです。

私たちは、一刻とも再生可能エネルギーへの切り替えを迫られているのです。